



たしませいぞう
田島征三 (1940-) 《役人の発言》

1998年 コナラのハカマ、^{じかま}膠・和紙

田島は、絵本作家として国内外で高い評価を得る一方、絵画や立体作品も精力的に制作しています。1990年代から環境保護活動に力を注ぎ始めると、画材も自給自足することを考え、木の実や落葉、流木といった自然物で制作するようになりました。

本作では、無数のコナラのハカマ(ドングリの帽子の部分)を使い、口から何かを吹き出す役人の姿を表現しています。皮肉を込めたタイトルや空虚な人物像に独特のユーモアが漂います。

美術館 (☎23-1636)



本刈谷神社八雲社の石灯籠

(天王町4丁目)

本刈谷神社は大正2年に八幡社、八雲社、北野社の3社が八雲社の地に合祀された神社です。八雲社は永仁3年(1295)に創建され、牛頭天王を祀つて天王社と称していましたが、明治元年(1868)になって八雲社と改称しました。本殿の後ろには一対の灯籠があり、これには西面に「延享三丙寅二月十二日」、北面には「牛頭天王宮」、東面には「諸願成就所」、南面に「富永氏女」とあります。延享3年は1746年、牛頭天王とは八雲社のことですので、この灯籠はもともとこの地にあったものだと思います。

～31年3月24日、逢妻町に
刈谷市歴史博物館が開館します～



かりやの風景 192

実りの秋、収穫の秋(小垣江町、半城土町)

市内の稲作付面積は、約605ha。市街地の周辺に水田が広がっており、コシヒカリ、あいちのかおりといった品種を中心に米作りをしています。写真は、コシヒカリの収穫風景です。コシヒカリは、全国的にも有名な優良品種。あいちのかおりは、愛知県が開発し、この地方の風土に合った品種です。

一番おいしいのは、秋の新米。少なめの水で炊くのがおいしく食べるコツだとか。10月ごろからお店に並び始めます。「食欲の秋」に、ぜひ皆さんも味わってみてはいかがでしょうか。

